

特集

日光市の ここが好き！

あなたの好きがきくと 見つかるまち

皆さんは、「シティプロモーション」という言葉をご存じですか。簡単に言うと、自分たちが住んでいるまちの良いところ、好きなところを多くの方に伝えるということなのです。

皆さんの中には、市内の好きなところを他の人に教えたり、フェイスブックやツイッターなどのSNSで情報を発信したりした経験がある方もいると思います。まさにそれがシティプロモーションです。そして、皆さん一人一人が日光市の広報マンなのです。

(株)ブランド総合研究所が調査した「地域ブランド調査2016」の魅力度ランキングで日光市は過去最高の11位を記録しました。

日光を愛する「日光ファン」を増やすために、皆さんにとつての「日光市ここが好き」や「日光市ここが良い」をどんどんPRしていきたいでしょう。

しかし、皆さんはどの

くらい日光市のことを知っていますか。

市ホームページにあるシティプロモーションページ「SUKIDESU日光」は、ご存じですか(左写真)。

これは、第2次日光市総合計画前期基本計画の人口減少対策「SUKIDESU(好きです)日光」の重点施策を「S」「U」「K」「I」「D」「E」「S」の6項目に分けて市の魅力を紹介しているものです。

この特集では、6項目それぞれのテーマで活躍する団体・個人、魅力ある施設やイベントにスポットを当て、紹介します。皆さん、この機会に改めて日光市を思い返し、魅力を再発見してみてくださいいかがでしょうか。あなたは日光市のどんなところが好きですか。



日光市シティプロモーションページ

S U

育てる 産む ➡4P

日光市には、子どもを産みたい・育てたいと思える環境、子育てに対する経済的負担の軽減を含めた支援施策が充実しています。

「育てる・産む」では、地域子育て支援センターを訪れていた親子に話を伺いました。

K 来る ➡5P

日光市には、世界に誇れる自然、歴史や文化がたくさんあります。豊富な市の観光資源を皆さんはどのくらい知っていますか。

「来る」では、栗山地域で「鬼怒川源流・栗山ツアー」を行っている青山あおやまさんに話を伺いました。



I ➡6P 生きがいを持てる

日光市には、市民一人一人がそれぞれのライフステージで生きがいを持ちながら、健康で活躍できる環境や人と人とのつながりを形成できる場があります。

「生きがいを持てる」では、「杉並木大学」と「サクシード日光」を紹介します。



D E 出会う ➡7P

日光市には、もっと楽しいまちにしたいと思う方たちの出会いや、まだ住んでいないけど、これから住んでみようかなと思う方との出会いがあります。

「出会う」では、まちづくりのための人材育成「日光創新塾」と市内で行っている移住・定住イベントを紹介します。



S U 住む ➡8P

日光市は全国で3番目の面積を持つ自治体です。「知らなかった」「知っていたけど訪れたことがない」魅力的な場所がたくさんあります。

「住む」では、市内の生活を満喫している神山かみやまさん一家の1日に同行しました。

S 育てる

U 産む

地域子育て支援センター

地域子育て支援センターは、子育て中の保護者と乳幼児の子どもが利用できる集いの場です。利用前の予約は不要で、利用料も無料です。

当センターは、広いスペースで子どもを遊ばせられるのはもちろん、保護者の育児相談も行っています。

開設時間：午前9時30分～午後4時(日曜・祝日は午前10時～午後3時)



今回は、地域子育て支援センターを利用している親子に日光市での子育てについて話を伺いました。

友達と遊べる場所・お母さんの癒しの場所

地域子育て支援センターは、近い年齢の子どもを持つお母さん同士やセンターの職員たちと子育ての不安や悩みなどについて共有し、気軽に相談ができる場所です。

お母さんたちは「このような施設があつてうれしい。広いスペースで遊ばせることができるのはもちろんですが、私たちの癒しの場にもなっています」と話してくれました。

子どもにとっては友達と一緒に遊ぶことのできる社交場であり、お母さんにとってはストレス解消の大切な場となっています。

子育てにやさしいまち

「子ども医療費助成制度」(高校3年生相当まで医療費を助成)や、1歳未満の子を対象に育児用品と交換できる「すくすく赤ちゃん券」の支給、予防接種費用の補助など、「日光市は子育てに對する経済的支援がうれしい」という声が上がりました。

「日光市は、子育てに對して手厚いと思います。待機児童などの心配も無いですし…自然も多くて、子育てしやすい環境です」と、話していました。



郷田センター長から

地域子育て支援センターには、月に800組ほどの親子が遊びに訪れます。

毎月子どもや保護者を対象に、いろいろなイベントを行っています。私たちがメインは子育ての悩みを抱えている方の育児相談です。

子育て世代がここに来てほつとできる。そんな場所になればいいなと思っています。



職員一同お待ちしております！
(下段左から2人目が郷田センター長)

K 来る



たくさんの種類の温泉があるところ。
電車で訪れやすい場所なので
何度も来ています。

みたけまりえ
三竹麻利衣さん
(千葉県)

食べ物がとてもおいしい!
紅葉もとてもきれいで、自然が豊か。



なかやまあやの
中山綾乃さん
(千葉県)

来てよかったと思える魅力
市内の観光に訪れた方々は日光市にどんな魅力を感じているのでしょうか。話を伺いました。
また、実際に栗山地域で観光客向けのツアーを行っている青山さんにも話を伺いました。

社寺などの日本らしい文化があるところ。
子どもたちに見せに
来ました。



ひらぶき
平吹さんご家族
(山形県)

あおやま ひろゆき
青山 裕之さん



平成 23 年に地域おこし協力隊として栗山に移住。
3 年半の任期終了後、栗山で起業し生活しています。
広告・ウェブ制作会社に勤務していた技術を活かし、現在は地元企業を中心としたウェブサイト制作に携わっています。

鬼怒川源流・栗山ツアー

鬼怒川源流・栗山ツアーは、栗山の自然や文化を満喫することのできる体験型ツアーです。

夜のダムで行う「星空の観察会」、雪山を歩く「スノートレッキング」など、栗山でしか味わうことのできない楽しさを訪れた方に伝えていきます。

何もないとこそがよいところ

鬼怒川源流・栗山ツアーは年間 30 回ほどのイベントを行っており、ツアーガイドは全て地元の方たちが行っています。青山さんは主に企画や、ウェブサイトでの情報発信などを担当しています。

「人が少ないところ、静かなところ。そこが栗山の魅力」と語る青山さん。ツアー参加者の約 4 割ほどがリピーターだそうです。「豊かな自然をゆったり味わいたい人には特に喜んでもらっています」そう話してくれました。

実際、ツアー参加者から「栗山の夜は真っ暗で何も無くてとても静か。でも、そこがすごく好きなんです」という声をもらっています。

栗山ファンを一人でも多く

青山さんは、地域おこし協力隊の任期終了後も栗山を離れようとは思いませんでした。「栗山は人が少ない。その分、時間もゆったり流れていて、人と人の付き合いが深い。食事をごちそうになったり、風邪をひいたら薬を持ってきてくれたり...とても居心地が良いところですよ」

ツアーを始めて 3 年目。参加者から「住んでみようかな」という声も聞こえてきたそうです。栗山の魅力を皆さんに知ってもらい、栗山ファンを増やしたい。青山さんの挑戦は続きます。



栗山の自然を満喫



生きがいをもてる

杉並木大学

高齢者の社会参画事業として、市内に住む60歳以上の方を対象に毎月2回の講座を、2年間行っています。昭和62年から延べ1200名以上の方が参加している歴史ある事業です。

現在は6講座(写真・料理・陶芸・書道・水彩画・版画)を開講しています。



杉並木大学料理講座
2年生5名に話を伺いました。

いきいきセカンドライフ

今年の3月で卒業を迎える杉並木大学料理講座の皆さん。今回はクリスマスメニューにチャレンジしました。息ぴったりに手際良くメニューを仕上げていきました。
講師の辻裕見子先生は「最近では男性の方も増えて来ました。未経験の方が多いですけど、卒業する頃には見違えるほど上達していきます」と、話してくれました。

講座以外でも一緒に旅行に行ったり、卒業生たちは講座のメンバーで食事に行ったりすることもあるそうです。
仕事を引退した後、皆さんいきいきと第2の人生を楽しんでいます。



いわさき かずみ
岩崎 一美さん

今まで料理なんて作ったことはなかったのですがとても面白い。
この講座とメンバーに出会えて感謝しています。



多くの若者の出会い・交流の場

ヨガ&ピラティス講座。ゆったりとした音楽とアロマの香りに心を落ち着かせながら、それぞれ自分と向き合う時間を楽しみました。

講師の小川智子先生は「男性の方が増えてきて、若者の交流の場になっていきますね。とても良い環境だと思います」と話しています。



ヨガ&ピラティス講座の参加者

した。

参加者からは、「夜に開催しているので、仕事終わりに参加できてありがたい」「ここでできた友達と他の講座にも参加したい」という声が上がっています。
勤労青少年ホーム(サクシード日光)にも、利用者が主体となっていて行っているクラブ活動や、講座の壁を越えてのごみ拾いなどのボランティア活動を行い、若者の生きがいづくりの場となっています。



講座の様子

勤労青少年ホーム (サクシード日光)

市内に在住または勤務している青少年(35歳未満)を対象に、年間8講座を実施する他、イベントなどを開催しています。

講座の受講やイベントを通して若者の出会いや交流を応援しています。

参加には事前の登録が必要です。詳しくはお問い合わせください。



DE 出会う

日光創新塾

まちづくりの若いリーダーを育てることを目的に平成24年から始まった事業です。

市内に在住または勤務する若者30名程度がテーマごとにそれぞれのグループに分かれまちづくりを行っています。



日光創新塾で活動している
いまなりよう
今成綾さんに話を伺いました。



グループごとのミーティング

にぎわいのあるまちに

5年ほど前に地元でUターンして来ました。「日光創新塾」に参加したきっかけは、地元をもっと楽しいまちにしたいという思いからです。

現在は、市内の貸し出し可能な店舗の調査を行っています。シャッターが閉まっている店舗を確保・活用し、若い起

業家が出店しやすい環境づくりを目指しています。

多様な想いと出会い

自転車で足尾を巡りながら写真を撮るイベント「ふおたりんぐ足尾」の立ち上げに携わったことがあります。初めてのことがありです。初めてのことでありでも勉強になりました。

職業も経歴も違ういろいろな人が集まり、さまざまな意見が出てきます。それをぶつけあって良いものを作っていく。それがまちづくりだと考えます。「楽しいまちにしたい」という思いでみんながつながっていると 생각합니다。

これからは観光名所だけに頼らない独自のまちづくりを目指していきたいです。



今成 綾さん

大切な人との出会いも応援しています

市は、移住・定住を促進するため縁結びイベントや移住体験ツアーを行っています。平成28年10月30日に実施した縁結びイベントは、男性19名、女性14名が参加しました。トークタイムや日光二荒山神社の散策を行い、3組のカップルが成立しました。2回目を3月18日(土)に予定しています。

移住体験ツアーは、9月と11月に実施し、県外から30名の参加者に日光の「暮らし」や「人」に出会い、体験してもらいました。これからも、市はさまざまな出会いを応援していきます。

担当者の話

市は、移住・定住者を応援しています。移住される方の多くは新しい土地、地域での暮らしに少なからず不安を感じています。

市民の皆さんには、そんな方たちを温かく優しく迎えてもらえるとうれしいです。



地域振興課
たつみかなこ
辰巳歌奈子 主任



移住体験ツアー最終日
日光の生活を振り返り



移住体験ツアー
先輩移住者とのグランピングの様子
※グランピング…おしゃれなキャンプ



神山家休日の 1日に密着



午前4時～8時

鬼怒川で趣味の釣り
※遊漁期間中

子どもたちが起きる前が直樹さんの趣味の時間です。水がきれいなところにしかいないヤマメやイワナも生息しています。



午前9時～10時30分
朝のお散歩

直樹さんが小さい頃からよく通っていた今市地域の農道。「ここから見える山の景色が好きなんです。子どもたちも好きになってくれるといいな」と直樹さん。



午前11時～午後2時
日光だいや川公園

広い公園なので好きなだけ遊ばせることができます。シートを引いて弁当を食べながらゆっくり過ごしたり、遊具で遊んだりします。



午後2時30分～4時
小杉放菴記念日光美術館

「企画展やコンサートなどのイベントが多く、いつ来ても飽きないですね」と恵理子さん。



午後4時30分～6時
日光和の代温泉「やしおの湯」

日光は温泉が多いのも魅力の一つ。疲れた体を癒して、明日も頑張るぞ！



帰宅



知ってはいけるけれど...
そんなに知らない日光の魅力

広大な市域を誇る日光市。皆さんはお気に入りのスポットはありますか？ 市内で暮らしているけれど休日は市外に...なんていう方もいるかもしれません。そんな皆さんに、休日にくらりと訪れることのできるスポットをご紹介します。

今回は、日光市が大好きな神山さん家族の休日に同行しました。



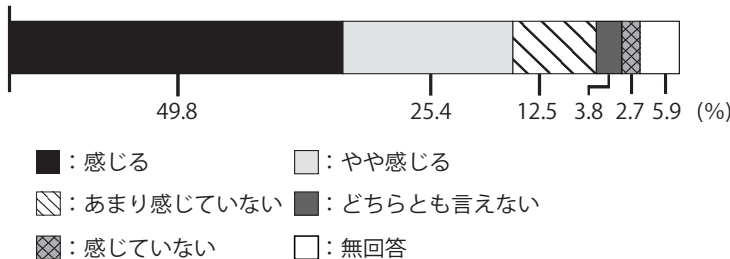
協力してくれた神山さん家族

直樹さん、恵理子さん、斗陽くん(4歳)、充輝くん(2歳)の4人家族。

「日光市は地域の人と人のふれ合いが多いところが好き。また、水が本当にきれい」と直樹さん。趣味は釣り。休日は恵理子さんの自由な時間を作ってあげたいと進んで子育てを行う良きパパです。

恵理子さんは日々子育て中。子育ての合間を見つけては趣味の手芸や裁縫を楽しんでいます。

図：日光市に愛着を感じている市民割合



実は、平成27年から平成37年にかけて、市の定住人口は9、200人減少すると見込まれています。現在の人口からすると約11%の減少です。市は「日光市人口ビジョン」を策定し、各種施策を行うことで、人口

の減少に歯止めをかけようとしています。そのひとつがシティブロモーションです。平成27年度に市民意識アンケート調査を実施したところ、市に対して75.2%の方が愛着を感じると答えています。今までご紹介した市のさまざまな魅力。今回の特集だけでは紹介しきれない多くの魅力があります。もしかするとあなたしか知らないの市の魅力もあるかもしれません。

皆さん、これまでの紹介を通して、再発見できたこと、知らなかったことはありましたか。自分が良いなと思っているところを他の皆さんに伝えてみませんか。「そんなこと？」ということも他の地域の方からは「あれ？日光って魅力的かも」と思うことがあるのではないのでしょうか。あなたが感じている魅力が多くの方に日光市の魅力として共感してもらえるかもしれません。

「日光って魅力的！」あなたのその一言がまちの未来を変える

行政が市のシティブロモーションを行うだけでは限界があります。SNSなどを通じて、一人一人の情報発信力が大きくなる現在、このまちに住む日光市の広報マンである市民(あなた)の力が重要です。

選ばれるまちを目標して

子育てに手厚いところ、地元の方も知らないような魅力がたくさんあること、いくつになっても生きがいを持って生活できること、たくさんのお会いがあり、それを市が応援しているところなど、あなたにとっての魅力は何ですか。

あなたの「日光って魅力的！」その一言がまちの未来を変えるきっかけになるかもしれません。

この記事について詳しくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)51135

表：各施設一覧

各事業名	住所	電話番号
地域子育て支援センター → 4P	日光市今市 456 (ショッピングプラザ日光4階)	22-2299
鬼怒川源流・栗山ツアー → 5P		鬼怒川源流・栗山ツアー実行委員会 070-2835-4478
杉並木大学 → 6P	日光市平ヶ崎 160 (中央公民館内)	22-6211
サクシード日光 → 7P		
日光創新塾 → 7P	日光市今市本町1番地	総合政策課 21-5131
婚活事業 → 7P		地域振興課 21-5147
日光だいや川公園 → 8P	日光市瀬川 844	23-0111
小杉放菴記念日光美術館 → 8P	日光市山内 2388-3	50-1200
日光和の代温泉「やしおの湯」 → 8P	日光市清滝和の代町 1726-4	53-6611